

第6学年3組 道徳学習指導案

平成19年10月3日(水) 5校時
仙台市立黒松小学校 教諭 今藤 正彦

1 主題名 「小学生に携帯電話は必要か」

道徳内容項目…2-(2) 思いやり, 4-(2) 公德心・規則の尊重
情報モラル指導モデルカリキュラム…情報社会の倫理 a 3-1

2 主題設定の理由

(1) 価値について

情報社会の進展により、インターネットや携帯電話が急速に普及していく中で、児童・生徒がトラブルに巻き込まれるケースが後を絶たない。特に、インターネットの掲示板や携帯電話のメールによる誹謗中傷やいじめは、深刻さを増している。

道徳内容項目2-(2)に「だれに対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にする。」とあるが、ネットワークでのコミュニケーションでも相手を思いやる気持ちの大切さは同じである。また、4-(2)には「公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす。」とあるが、情報ネットワーク社会においては著作権の尊重や個人情報の保護などが遵守されるべき大きな課題となっている。

昨年度には、文部科学省委託事業により、情報モラル指導モデルカリキュラムが策定された。また、今年9月18日に開かれた中央教育審議会教育課程部会(第4期第10回)の情報教育配付資料では、小学校段階での情報モラルに関する指導の不十分さが指摘され、改善例として「道徳においても、その指導に当たって、発達段階に応じた情報モラルに関する取扱いに配慮することとする。」との記述が見られる。

今後、誰もが安全に恩恵を受けられるネットワーク社会を構築していくためにも、自分を律し適切に行動できる正しい判断力と、相手を思いやる豊かな心情、さらにはネットワークをよりよくしようとする公共心を育てていくことが必要であると考えます。

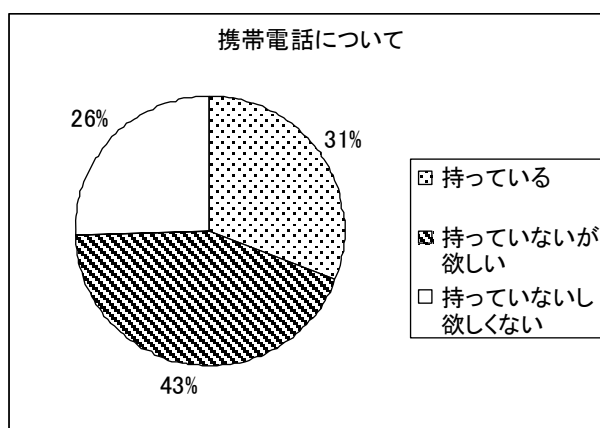
(2) 児童の実態

本学級は男女とも明るく活発な児童が多く、学習には前向きに取り組んでいる。しかし、自分に都合のよい理屈で自己主張を押し通す児童もいるため、些細なことからトラブルになる場面も時々見られる。

携帯電話の所持について調べたところ、39名のうち12名が「持っている」と答えた。また、「持っていないが欲しい」と答えた児童が17名で、「持っていないし欲しくない」と答えた10名を大きく上回った。

このように、本学級児童の携帯電話所持率や関心の度合いは非常に高い。

しかし、携帯電話がもたらす危険性についての理解や情報モラルが児童に十分身に付いているとは言えない状況にあり、6月に携帯メールによるからかいが原因のトラブルも起きていることから、本主題を設定した。

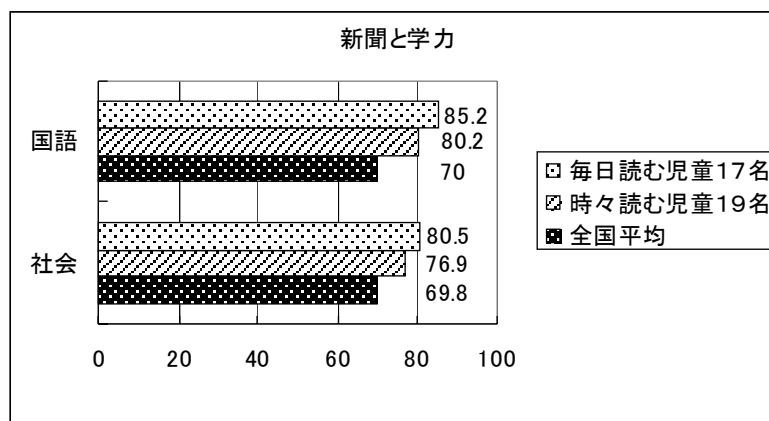


(3) N I Eとの関連

新聞の教育利用は、N I E（エヌ・アイ・イー、「Newspaper in Education」の略）と呼ばれ、全国各地で広がりを見せている。新聞紙面には世の中の様々な情報が日々掲載され、「生きた教材」として私たちの知の欲求を満ちし、生活に役立っている。また、新聞には、論理性、詳報性、一覧性、記録性、随時性、便覧性などのすぐれたメディア特性がある。

本学級でN I Eに関するアンケート調査を実施したところ、新聞を毎日読む児童17名と時々読む児童19名を合わせて9割を占めた。また、新聞を読んで自分の考えを持ったリ、新聞記事を話題にしたりしたことがある児童も6割程いるなど、新聞への関心は非常に高いことがわかった。

さらに、新聞を毎日読む児童と時々読む児童について、仙台市標準学力検査の国語と社会の平均正答率を比較してみたところ、右のグラフのように相関関係があることが明らかになった。



活字メディアを代表する新聞は、確かな情報源として学習にも大いに役立てることができ。「小学校学習指導要領解説道徳編」第4章第4節では、説話の工夫として新聞が例示されている。また、文部科学省委託事業で作成された『「情報モラル」指導実践キックオフガイド』（日本教育工学会発行）には、新聞記事データベースを活用した実践例が紹介され、以下のような記述がある。

新聞記事データベース等を利用して調査することを通じて、インターネット上で起きている事件について調査し、社会的な問題や自分たちの課題について考え、自己の生き方について考えることを目指す。そして、軽はずみな行動が自分の生活、友だちの生活、社会全体にどのように影響を与えるのかを新聞等で報道されている事件を通じて知る。

本学級においては7月18日に、教師の提示した2つの新聞記事「全児童にGPS携帯」（2007年7月1日、朝日新聞）、「いじめIT化深刻度増す」（2007年6月8日、河北新報）をもとに小学生に携帯電話が必要かどうかを考え、自分なりの意見をワークシートに書くという授業を実践している。その際、新聞記事を読んで自分の考えを変えた児童が一部に見られた。

本時の授業においても、ディベートでの主張の根拠として、児童が家庭で切り抜いたり新聞記事データベースで検索したりした新聞記事を活用する。また、教師が用意した新聞記事も提示し、携帯電話の使用には光と影の両面があることに気付かせたいと考える。

なお、本時の授業を構成するにあたって、宮城県N I E推進委員会特別研究部会で作成した「N I E活動に生かせる目標リスト」を参考にした。

(4) 資料について

本時の資料は、携帯電話に関する複数の新聞記事である。

ディベート肯定側の児童は、河北新報社の新聞記事データベースを検索し、子ども向け携帯電話の記事を2つ選んだ。1つは、2007年4月3日「生活大事・」のコーナーで、携帯電話のフィルタリング機能を紹介した記事である。もう1つは、2006年4月7日の記事で、「子ども向け携帯好調」の見出しで緊急時の防犯・安全機能を紹介しているものである。

一方、ディベート否定側の児童は、河北新報社の新聞記事データベースから2006年12月17日の「仙台・ネットいじめ」の記事を検索した。仙台市内の中学生が被害生徒に成り済まして同級生の携帯電話に悪口メールを送り、被害生徒へのいじめがエスカレートした事件である。また、2007年9月2日の朝日新聞から連載記事「ケータイが変える変わる、親の圏外 危ない接点」を切り抜いた。携帯電話に関する親の声や地域の取り組みなどが紹介されている。

肯定側と否定側の提示した記事を比較することにより、携帯電話のメリット（光）とデメリット（影）を浮き彫りにし、誰もが安心して安全に携帯電話を使えるようにするためには利用者の情報モラルが大切であることに気付かせたい。

また、教師側からは、2007年8月20日の日本経済新聞に掲載された『『プロフ』でトラブル多発』の記事を紹介し、遊び感覚で安易に個人情報を公開することが非常に危険であることに注意を向けさせたいと考える。

(5) 指導の方向

導入では、本時学習で「小学生に携帯電話は必要である」を論題にディベートを行うことを確認する。

展開前段では、新聞記事などの資料を根拠とし、右の進行表に従ってディベートを進める。ディベーターには事前にワークシートを渡し、原稿を作成させておく。使用する新聞記事は、判定者の児童が手元で読めるように事前に印刷して配布しておき、プロジェクタを使用してスクリーンにも投影する。また、討論のキーワードを黒板に磁石で掲示し、論点が常に確認できるようにする。その際、肯定側と否定側で別々の移動黒板を使用することで、メリットとデメリットが容易に対比できるようにする。

1	肯定側立論	3分
2	否定側立論	3分
	<作戦タイム>	1分
3	否定側反対尋問	3分
	<作戦タイム>	1分
4	肯定側反対尋問	3分
	<作戦タイム>	1分
5	否定側最終弁論	2分
6	肯定側最終弁論	2分
7	判定	

展開後段では、携帯電話の使用について、自分たちの身近な生活上の問題としてとらえ直し、自分の考えをワークシートに書いて話し合う。その過程で、携帯電話そのものが悪ではなく、使う人間の情報モラルが問われていることに気付かせていきたい。

終末では、携帯電話使用上の注意点をまとめた資料を配り、使用場面を想定した具体的な注意を促したい。そして、携帯電話に限らず、相手を思いやる心や、ルールやマナーを守ることが大切であることを感じ取らせたいと考える。

3 ねらい

相手のことを思いやり、ルールやマナーを守って携帯電話等の情報機器を上手に活用しようとする心情を育てる。

4 学習指導過程

段階	主な学習活動	指導上の留意点と教師の支援
導入	1 「小学生に携帯電話は必要である」を論題に、肯定側（5人）、否定側（5人）、判定者（残り全員）に分かれてディベートを行うことを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に全員に「ディベート判定表」を配布しておき、判定する際の観点を示しておく。 ・判定者には、赤白帽を持参させる。
展開前段	2 新聞記事などの資料を根拠にディベートを行い、携帯電話のメリットとデメリットについて考える。 <予想される肯定側の主張（メリット）> ○親や友達と連絡をとりやすい。 ○ブザーや位置情報メールなど、防犯に役立つ。 ○フィルタリングサービスがあり、安全である。 <予想される否定側の主張（デメリット）> ▲携帯メールでのいじめが起きている。 ▲出会い系などの有害サイトが、事件のきっかけになっている。 ▲費用がかかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ディベートの司会は教師が行い、必要に応じて討論の軌道修正を行う。また、ディベーターが興奮して声を荒げたり相手を中傷したりする場合には、すぐに注意を与える。 ・ストップウォッチで計時し、10秒前に合図をする。 ・根拠として使用する新聞記事は印刷して配布し、プロジェクタを使用してスクリーンにも投影する。 ・討論のキーワードをあらかじめ短冊に書かせておき、黒板に磁石で掲示できるようにする。 ・判定結果は、判定者各自に肯定側白帽子、否定側赤帽子で表示させる。
展開後段	3 携帯電話の使用について、自分たちの身近な生活上の問題としてとらえ直し、自分の考えをワークシートに書いて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・本学級と「モバイル通信白書 2005」の携帯電話所持割合のグラフを提示し、児童に身近な問題であることを認識させる。 ・携帯電話の利便性を確認した上で、トラブルを紹介した新聞記事を提示し、板書上でメリットとデメリットを対比させ、光と影の部分があることを意識させる。 ・考えを話し合っていく過程で、携帯電話そのものが悪ではなく、使う人間の情報モラルが問われていることに気付かせる。
終末	4 教師の説話を聞き、これからの生活に役立てようとする意欲を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話使用上の注意点をまとめた資料を配り、簡単に解説する。 ・携帯電話に限らず、相手を思いやる心や、ルールやマナーを守ることが大切であることを感じ取らせる。

5 評価

相手のことを思いやり、ルールやマナーを守って携帯電話等の情報機器を上手に活用しようとする心情が育ったか。

論題「小学生に携帯電話は必要である」

	判定の内容	肯定側	否定側
立論	①話の内容がわかりやすいか ②ことばがはっきりしているか ③姿勢、顔、態度はどうか	1 2 3 4 5 () 点	1 2 3 4 5 () 点
反対 尋問	④よい質問をしたか ⑤質問にはっきり答えられたか ⑥たくさん意見を言ったか	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 () 点	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 () 点
最終 弁論	⑦話の内容がわかりやすいか ⑧ことばがはっきりしているか ⑨姿勢、顔、態度はどうか	1 2 3 4 5 () 点	1 2 3 4 5 () 点
総合	⑩いっしょうけんめいだったか ⑪落ち着いて参加できたか	1 2 3 4 5 () 点	1 2 3 4 5 () 点
合計点数		点	点

自分の考え・感想

N I E アンケート

番	
---	--

1 あなたの家では新聞をとっていますか

- ①はい ②いいえ ③わからない

※「①はい」と答えた人（ 河北 朝日 読売 毎日 産経 日経 ）

2 あなたは新聞を読みますか

- ①毎日読む ②ときどき読む ③読まない

3 あなたは新聞を読むのが好きですか

- ①好 き ②きらい ③どちらともいえない

4 あなたはおもに新聞のどこを読みますか，○をつけましょう（いくつでも）

- ①一面（トップ記事） ②政治・経済 ③社会 ④国際 ⑤文化・生活
⑥科学 ⑦スポーツ ⑧地域・宮城 ⑨芸能 ⑩テレビ ⑪マンガ
⑫社説・論説・コラム ⑬投書欄 ⑭天気予報 ⑮趣味・娯楽 ⑯広告
⑰その他（ ）

5 新聞記事を読んで自分の考えを持つことはありますか

- ①よくある ②ときどきある ③あまりない

6 おもしろいと思った新聞記事について，家の人や友だちとおしゃべりをしたことがありますか

- ①ある ②ない

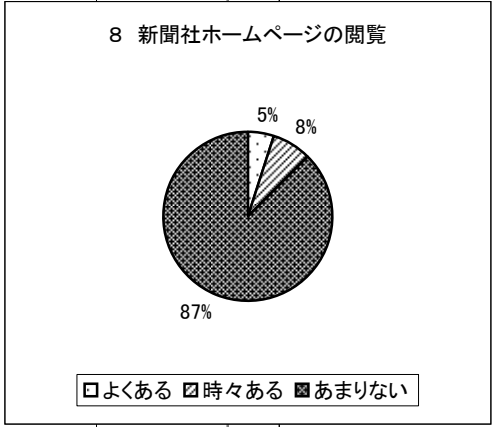
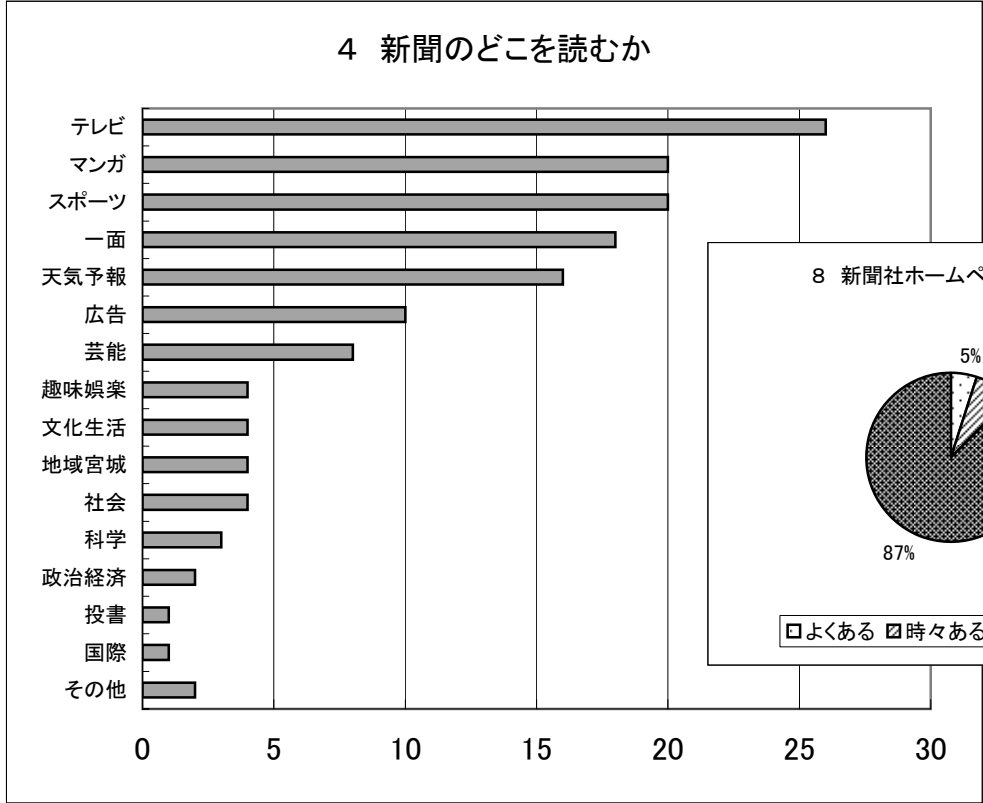
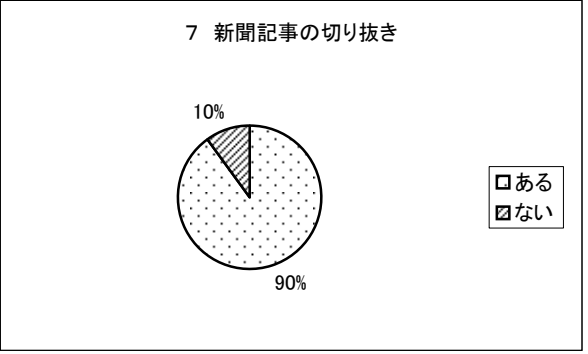
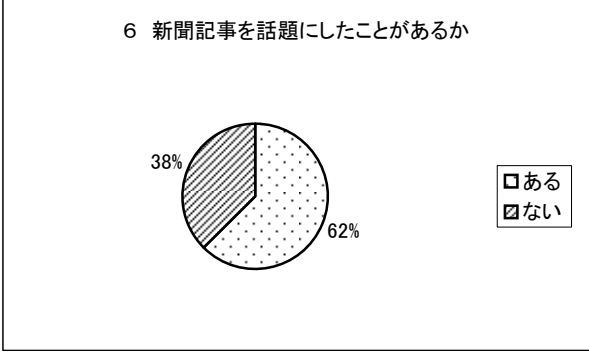
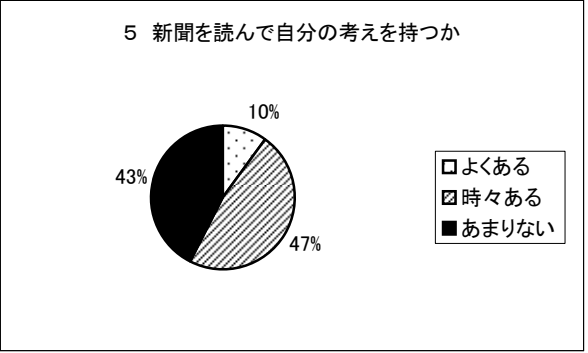
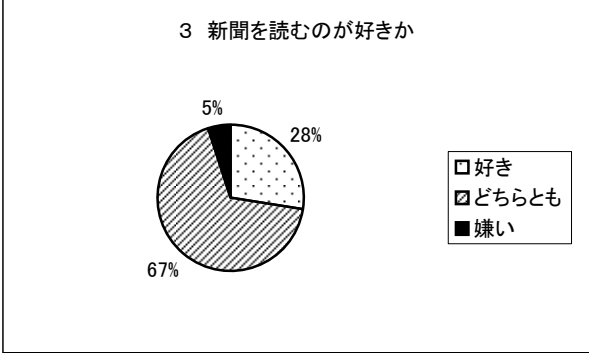
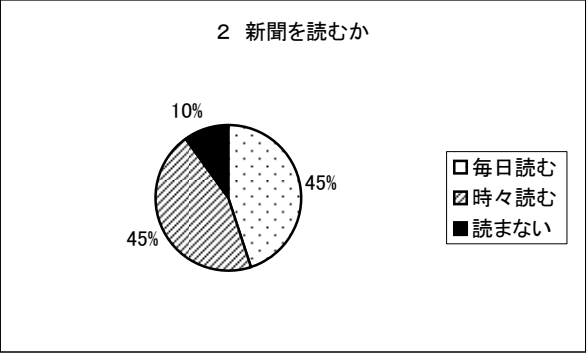
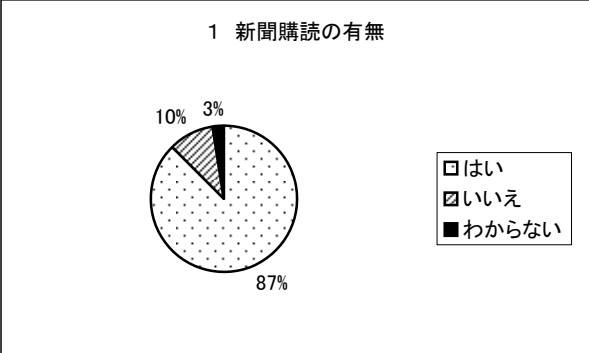
7 おもしろいと思った新聞記事を切り抜いたことがありますか

- ①ある ②ない

8 インターネットで新聞社のホームページを見ることはありますか

- ①よくある ②ときどきある ③あまりない

NIEアンケート(黒松小6年3組40名, 平成19年7月18日実施)



「N I E活動に生かせる目標リスト」からの抜粋

【問題解決的学習を進める力】

表 9 高め合い 段階表

ステップ	目 標
1	自分の考えや友達のかえのよさを見つけ、感想を伝え合う。
2	理由や根拠をはっきりさせながら、質問や意見を伝え合う。
3	自分の考えを持ちながら、相手の考えを聞き、質問や意見を通して練りあう。
4	客観的なデータや専門的な知識を取り入れて話し合い、考えを練り合う。

【情報モラル・情報発信の責任についての理解】

表 1 4 情報モラル・情報発信の責任についての理解

	ステップ	目 標
情報モラル 発信者として	3	相手の立場を考えた表現で情報を発信する。
個人情報の保護	3	個人情報の保護に配慮して情報を収集・発信する。

【情報社会に積極的に参加しよりよい社会にするために貢献しようとする態度】

表 1 5 公益性

ステップ	目 標
1	人は情報を発信したり、受け取ったりして生活していることに気づく。
2	情報のやりとりは、お互いの生活をよりよくするために行われていることに気づく。
3	お互いの生活をよりよくするために、情報を発信することができる。
4	公益のために目的を持って情報を収集・発信することができる。

表 1 6 コミュニケーション 情報の発信者として

ステップ	目 標
1	自分の言いたいことを考えながら表現できる。
2	伝えたいことを明確にして相手に分かりやすく伝えることができる。
3	目的を持って情報を発信することができる。
4	相互に情報を交換して、互いに向上しようとする。

表 1 7 コミュニケーション 情報の受け手として

ステップ	目 標
1	情報提供者に感謝の気持ちを持ちながら話を聞く。
2	目的を持って情報を得ることができる。
3	自ら目的をもって、発信者の意図を理解して情報を得ることができる。
4	相互に情報を交換して、互いに向上しようとする。